



こそだて通信

かしのき保育園 2011年度 No.2

==こころの余裕==

朝からじりじりとした夏の日差しを感じ始めました。これからプールやお祭り、旅行など、いつもよりお子さんと一緒に過ごす時間が増えることと思います。

地域のお母さん方とお話する機会があると、お子さんと一緒にいる時間が長いからこそのお悩みをお聞きすることがあります。

それこそ朝起きてから夜寝るまで、お子さんとずっと一緒に過ごしているお母さん。お子さんの成長をつぶさに見守れる嬉しさを感じながらも、気が付けば一日中、口うるさく叱っている気がして、そんな自分がほとんど嫌になるというのです。

長い時間、子どもと一緒にいると、危ないことをしたり、友だちと仲良くできなかったり、して欲しくないことを目にする機会が多くあるのでしょうか。子どもと楽しく過ごしたいと思っても、言い聞かせることが先に立ってしまうのだそうです。

お子さんとはなれることの少ない毎日では、気分転換もままならず、気がつけば子育ての責任を一人で背負いがちな状況があるようです。

一方でうちの娘。保育園から帰ってくると、ひとしきり今日の報告タイムです。

「おともだち、たたいちゃダメなんだよね」「アリさんはぎゅってしたらいけないのに、ちょっとぎゅってしちゃったの」「けんかしちゃったけどね、きょうはごめんねしたよ」「のぼっちゃいけないんだよ、あぶないからね」

どれも親の私が伝えていくべきことですが、保育園の生活の中でも子どもは日々学んでいることに気づかされます。

一緒に過ごすお友だちの力も大きく、『いつの間にも出来るようになったの?』とびっくりする姿に出会うこともあります。

自分の子どもを自分一人で育てているわけではないということ、自分のいない社会の中でも育てられていることに改めて気づくとき、肩の力がふっと抜け、こころに余裕が生まれる気がします。

この夏、たくさん笑い合いながら、楽しい時間を子どもと過ごしたいと思っています。

(担当 藤井あづさ)